

令和 8 年

第 3 回（9 月）波佐見町議会定例会

町政に対する一般質問

波佐見町議会

通告順位	1	通 告 者	6 番 岡 村 達 馬 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 波佐見町地域防災計画について</p> <p>町民の生命と財産を守る指針とされる地域防災計画が本年 6 月改定された。</p> <p>今回の計画書は、昨年策定されたものと内容や概要において大きな変化は見られないが、数値や根拠において一定の修正や訂正がなされている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) ここ数年、異常気象や自然災害が身近に発生しているが、昨年の計画書と大きな違いは見受けられない。今回の改訂における特筆事項はなにか。</p> <p>(2) 構成する団体の人数が減少する中、水防体制や支援体制には大きな変化が見られない。今後はこれまでどおりとはいえないかと思えるがどうか。</p> <p>(3) この計画書における数値の根拠には、昨年より改善されたところも多くある。数値や文章が変化した根拠はなにか。</p> <p>(4) 熊本地震における仮設住宅建設等の位置や場所について、国や県の対応に変化が見られる。本町における災害公営住宅の建設等の対応においても参考になると思うがどうか。</p>		
	<p>2. タブレット教育の実績と「ココロねっこ運動」について</p> <p>本町では国の「GIGA スクール構想」により、児童・生徒一人に一台のタブレット端末が配布され、令和 2 年度から授業において運用されている。これまでの活動経過と実績はどうなっているのか。また、長崎県の心の教育活動である「ココロねっこ運動」の見直しが進められている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 導入から 5 年が経過し、全国の学校現場からもタブレット授業のメリット、デメリットに関する意見が上がっている。この状況について、本町ではどのように捉えているか。</p> <p>(2) 当初から、各家庭の環境整備等により、子供たちの学習効果や能力に差が生じることが懸念されていた。現状、そのようなことが感じられるか。</p> <p>(3) これまでの紙媒体による理解と、タブレット授業（ICT）による理解において、最も大きな違いはどのような点にあると感じているか。</p> <p>(4) 学校教育法等改正により 2030 年以降デジタル教科書の導入が正式に決まった。教育現場に新たな負担と混乱を招く恐れはないか。</p> <p>(5) 長年、県内で行われてきた「ココロねっこ運動」の見直しが進められているが、本町の活動状況と、これからの運動のあり方をどう思うか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長

通告順位	2	通 告 者	1 番 前 田 博 司 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. これからの自治会活動について</p> <p>自治会は、地域コミュニティの基盤として、防災、福祉、地域活動、住民相互の支え合いなど、町行政と密接に連携する重要な役割を担っている。しかし、少子高齢化・人口減少の進行により、役員の担い手不足、加入率の低下、事務負担の増大、地域維持活動の困難など、その運営の持続可能性が揺らいでいる。さらに、公民館等の地域施設整備に必要な建設費の確保が難しくなるなど、地域力の低下が顕在化しつつある。これらの課題について、町としての現状把握と早急な対策について、次のことを問う。</p> <p>(1) 深刻化しつつある自治会役員の担い手不足と加入率の低下に打つ手はあるか。</p> <p>(2) 事務の効率化が必要であると考えるが、事務の集約化等が図れないか。</p> <p>(3) 公民館建設費の調達と地域施設の維持に向け、無利子貸し付け制度の充実や補助率の引き上げはできないか。</p> <p>(4) 少子高齢化・人口減少により、地域の維持活動が困難となっている地区への対策はあるか。</p> <p>(5) 国の「集落支援員制度」を活用する予定はないか。</p> <p>2. 地域公共交通への向き合い方について</p> <p>地域公共交通は、単なる「行政の事業」ではなく、「町民の生活基盤」として捉える姿勢が重要だと考える。本町のように鉄道がなく、人口減少・高齢化が進む地域では、行政が「守るべき公共サービス」として主体的に交通を設計し、住民と共に育てる姿勢が不可欠となる。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 公共交通の担当部署を専門部署へと改組し、体制を強化する考えはないか。</p> <p>(2) 利用者のみならず、住民全体への地域公共交通の認知度をどのように高めていくか、その具体的な対策は。</p>		

質問の相手	町 長

通告順位	3	通 告 者	10番 田 添 有 喜 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 道路の整備計画について</p> <p>近年、波佐見町に対する人気が高まり注目度もアップし、町外からの来町者も多くみられる。今後の町づくりに大きな可能性を感じる一方、県道や町道（生活道路を含む）の整備状況が懸念される。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>（１）町道における歩道の植栽等の管理については、これまでどのように行ってきたか。また、今後の管理方針はどうなっているか。</p> <p>（２）本年９月１日の道路交通法施行令改正により、中央線のない生活道路における自動車の法定速度が時速３０キロに引き下げられた。町として何らかの対策を考えているのか。</p> <p>2. 農業振興について</p> <p>町長は、選挙公約において、農業の担い手不足に対し「新規就農トレーニングファームの誘致」を進め、本町で就農できる環境づくりや「新しい作物の定着、農機具支援」を掲げられている。</p> <p>この公約実現に向けて、「農地マッチング支援事業」に取り組む考えはないか。</p> <p>3. 教育振興について</p> <p>近年、教育界は教職員の働き方改革や中学校部活動の地域展開など、大きな変革期を迎えている。</p> <p>そのような中であっても、教育振興に依然として多くの課題が山積している。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>（１）学校の安全管理について、施設の管理はどのようなことを行っているのか。併せて、児童・生徒の登下校時における安全確保、及び、教職員の健康管理について、具体的にどのような取り組みを行っているのか。</p> <p>（２）中学校における自転車通学生の通学路について、その指定はどのように定めているのか。</p> <p>（３）学校現場におけるカスタマーハラスメントに対し、どのような対策が講じられているのか。</p> <p>（４）体育センターや中学校の体育館に空調設備が整備されたが、これまでの使用実績と運用面における課題があるのか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長

通告順位	4	通 告 者	5 番 岡 村 真由美 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 猛暑と干ばつへの備えについて</p> <p>今年の夏も全国的に猛暑が続き、酷暑日を記録する所も多くあった。また、記録的な大雨による災害が多発する一方、本町では梅雨明け以降まとまった雨が降らず、深刻な渇水状況が長く続いた。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 7、8、9月の気温及び降水量について、例年と比べどのような変化が見られたか。また、それによる農業や町民生活にどのような影響があったか。</p> <p>(2) 深刻な渇水状況において、水道水についてはどうだったか。</p> <p>(3) 今後の災害による断水や深刻な渇水時に備え、町内に残る井戸を把握しておく考えがあるか。</p> <p>2. 農村環境改善センターの改修工事について</p> <p>南小校区に新たな放課後児童クラブ（「学童」）を設置するため、農村環境改善センターの大ホールの改修工事費が予算化された。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 具体的な改修箇所はどこか。また、工事日程等についてはどうなっているか。</p> <p>(2) 農村環境改善センターを、南地区の複合施設としてさらに整備していく考えはあるか。</p> <p>(3) 「学童」の待機児童数の推移は。また、来年度以降の見込みはどうか。併せて、近年の出生数の推移はどうなっているか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長

通告順位	5	通 告 者	3 番 澤 田 昭 典 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 西ノ原土地区画整理事業の進捗と今後のまちづくりについて</p> <p>本事業は、本町の持続可能なまちづくりに関わる最重要事業の一つであり、事業計画の変更等を経て町民の関心も高まっている。</p> <p>今後の見通しや事業成果による生活への還元について、具体的かつ透明性のあ る説明が求められている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 事業計画変更後の具体的な工事内容と現在の進捗状況、および建設資材 高騰等の課題に対する方針は何か。</p> <p>(2) 定住促進、経済活性化、防災力の向上、観光面での効果や費用対効果 (将来像) について、町民へ分かりやすく提示する手法や広報をどう考え ているか。</p> <p>(3) 歴史的・商業的魅力を持つ「西の原エリア」の民間活力の活用と、新た に整備される住宅地の良好な住環境を調和させた、一体的なまちづくりの 推進策は何か。</p> <p>(4) 本事業の町政における位置づけと、今後の明確な方向性、および事業完 遂に向けた町長の決意は。</p> <p>2. ふるさと住民登録制度の導入と関係人口の創出・拡大について</p> <p>人口減少に伴う担い手不足への対策として、全国の波佐見町ファン（関係人 口）を可視化し、町内の関係団体と連携して担い手を確保する体制整備が急務で ある。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 登録制度の創設や体制整備に関する方針は。</p> <p>(2) 確実な担い手確保に向けた今後の取組みについて、どのように考えてい るか。</p>		

質問の相手	町 長

通告順位	6	通 告 者	1 1 番 北 村 清 美 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 令和8年熊本地震を踏まえた本町の防災・減災対策について</p> <p>平成28年熊本地震に続き、本年7月に再度、震度7の地震が発生した。今回の災害対応で明らかになった課題から、本町の防災対策や避難体制に反映すべき点が見えてきた。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 避難所の整備・運営は。</p> <p>(2) 高齢者等の要支援者への対応は。</p> <p>(3) 地震災害に備えた具体的な対策は。</p> <p>(4) 防災情報の伝達は。</p> <p>(5) 地域との連携・自主防災組織の強化は。</p> <p>2. 前川町長の所信表明について</p> <p>所信表明において『1期目で実現しました様々な施策に加え、これらの施策を実現することで、これまで積み上げた「成果と変化」を町民皆様が確かに「実感」できるよう町民皆様の公共の福祉の向上と「日本一輝く波佐見町」をつくり上げるため全力で邁進してまいります。』と宣言された。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 町政運営に対する基本的な考え方は。</p> <p>(2) 所信表明で示された重点施策は。</p> <p>(3) 人口減少・少子高齢化への対応は。</p> <p>(4) 産業振興・地域経済の活性化は。</p> <p>(5) 所信表明に掲げた施策を実現するための具体的な取り組みは。</p>		

質問の相手	町 長

通告順位	7	通 告 者	2 番 脇 坂 正 孝 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 水不足対策について</p> <p>今年の夏は、梅雨明け後の雨量が極端に少なく、上水道用水、農業用水ともに長期にわたり不足し、町民の生活に大きな支障をきたした。異常気象と言われる昨今、水不足は今年に限らず最近の傾向である。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 農業用水不足の実態把握はどうか。</p> <p>(2) 農業用水不足の改善対策はどうか。</p> <p>①ため池</p> <p>②河川</p> <p>③用水路</p> <p>(3) 今年産米の作況指数はどうか。</p> <p>(4) 夏場の農業用水不足に対応するため、早期米作付けへの転換はどうか。</p> <p>(5) 農業用水不足への対応、原材料の高騰、米価の低迷等に伴い、今後の米作離れや農業離れが危惧されるが、その対策はどうか。</p> <p>(6) 生活用水不足の解消や災害時の代替用として、井戸水の再活用（飲料用を除く）が考えられる。そこで、井戸水用ポンプの設置費や配管工事費等の助成により、促進できないか。</p>		
	<p>2. 町長の所信表明における「放課後児童クラブ」の開設について</p> <p>所信表明において、『南小学校区における「放課後児童クラブ」の開設については、・・・令和9年度当初からの開設を目指します。』とある。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 施設整備について</p> <p>(2) 運営について</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長

通告順位	8	通 告 者	4 番 横 山 聖 代 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>町長の所信表明について</p> <p>(1) 窯業における「人への投資」として、若い世代や外国人材など多様な担い手が安心して働ける環境整備や、職場環境改善への支援が挙げられている。事業者の困りごとに直結する陶土高騰への対策や、現場の担い手確保に向けて、どのような計画と実効性をもって取り組むのか。</p> <p>(2) 波佐見焼のデザイン模倣への対応として「業界とタイアップした新たなブランディング施策」を打ち出されているが、波佐見焼の価値と技術を守り、未来へ投資するために、具体的にどのような戦略を講じるのか。</p> <p>(3) J Aが計画する「トレーニングファーム」の町内誘致や新規就農・施設園芸推進について、新規就農者の収益確保や技術習得に対する、町独自の支援体制および予算措置は。</p> <p>(4) 子育て世代の強い願いである「小児科誘致」について、その現状と見通しは。</p> <p>(5) 「こども家庭センター・よりそっと」を通じた伴走型支援について、孤立感や育児不安といった親の困りごとに寄り添うため、同センターを中心に相談体制をどのように強化し、子育てをしながら安心して働けるまちを実現していく具体的な取り組みは。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長

通告順位	9	通 告 者	8 番 城 後 光 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 障がい児等支援の現状と課題について</p> <p>文科省の調査によると、全国の小中学校の通常学級には、発達障害の可能性のある児童生徒が、約 8.8%（約 11 人に 1 人）在籍すると推定されている。各学校の特別教育支援員の配置状況からも、本町でも相当数の専門的ケアが必要な児童生徒が存在すると思われる。</p> <p>しかしながら、専門医療機関や気軽に相談できる専門人材等は本町周辺には著しく不足している。町長が掲げる「人への投資」を進めるうえで、就学前から就労にいたるまでの支援体制について、次のことを問う。</p> <p>（１）町内の障がい児数、および潜在的なグレーゾーン児童数の推計値はどうか。また、スクールソーシャルワーカーの配置数と、相談件数の推移はどうか。</p> <p>（２）近隣に専門医療機関が少なく専門人材も限られる中で、保護者が気軽に相談でき、早期支援につながる体制面の課題について、町の認識はどうか。</p> <p>（３）就学前、学校教育・放課後支援、そして将来の就職（自立）に至るまで、切れ目なく専門的支援ができる体制づくりにおける課題について、町の認識はどうか。</p> <p>2. 農地保護と害獣対策の強化について</p> <p>現行の害獣対策は、ワイヤーメッシュの設置と、猟友会による害獣捕獲に留まっており、就農者にとっては、営農意欲を減退させない抜本的対策が打てていない現状にある。イノシシだけでなく、アナグマやアライグマなど、その他の害獣が全体で活動を活発化させる中、農家や地域住民全体が、害獣の生態や正しい防除知識を習得し、町ぐるみで対策する仕組への抜本的見直しを行うべきである。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>（１）有害鳥獣駆除隊員の平均年齢、ワイヤーメッシュの総延長は。</p> <p>（２）有害鳥獣駆除隊員および、メッシュ敷設者から、活動にどんな苦慮の声が上がっているか。</p> <p>（３）農家や地域住民が、害獣の生態や防除知識を学ぶ場を、猟友会や JA 等とも提携し、町主導で定期的に設けるべきと考えるがどうか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長

通告順位	10	通 告 者	7 番 三 石 孝 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 地域公共交通について</p> <p>県内各地で主要路線バスの廃止が行われる中、本町では、10月1日より「波佐見町地域公共交通利便増進実施計画」に基づいて、佐世保・嬉野線の路線再編が行われたほか、実証運行であった「かわたな・はさみタウンバス」と予約制乗合交通「チョイソコのんなっせ号」が本格運行へと移行した。</p> <p>そこで、今後の課題と展望について、次のことを問う。</p> <p>(1) 本格運用までの経緯はどうか。</p> <p>(2) 実証運行による課題の抽出と対策（PDCAサイクル）はどうか。</p> <p>(3) 将来に向けての運行サービスの展望と体制づくりはどうか。</p> <p>2. 事務事業評価について</p> <p>行政サービスは、税金を予算化した事業として町民に還元されている。町民の多種多様な要望を実現するための事業はもとより、地場産業である農業・窯業の事業、加えて町の魅力発信としての観光が事業増加に拍車をかけている。一方、資材をはじめとする物価や人件費が高騰する時代を迎え、限りある財源の効果的活用が強く求められている。</p> <p>そこで、事務事業評価すなわち各事業の必要性や効果等の評価について、次のことを問う。</p> <p>(1) 令和8年度予算編成時における事務事業評価はどうか。</p> <p>(2) 令和9年度予算に向けての事務事業評価はどうか。</p> <p>(3) メリハリある予算化を進めるための課題と対策はどうか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長